

令和 7 年 11 月 28 日発行

◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆

農業担い手メールマガジン（第 4 4 0 号）

◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆

<トピックス>

1. 「令和 7 年度 病虫害発生予報第 9 号」（令和 7 年 11 月 12 日（水）付け）を発表しました
2. （みどり戦略技術紹介）園芸作物における堆肥入り複合肥料の施肥の省力化に資する活用法
3. サツマイモ基腐病に強く収量・外観・食味に優れる沖縄向け青果用紅いも新品種「Hai-Sai すいと」
4. 基腐病に強い赤紫肉色のサツマイモ新品種「さくらほのか」
5. 収穫したレンコンに傷が... カモの食害？－ 食痕から「カモ被害」を識別する標準作業手順書を公開 －
6. ドローンによるスクミリンゴガイ被害予測に基づく省力的な防除システムを開発
7. 第 2 回「田植え不要の米づくりコンソーシアム」を開催します

◆◆◆現場の皆さんへ◆◆◆

【1. 「令和 7 年度 病虫害発生予報第 9 号」（令和 7 年 11 月 12 日（水）付け）を発表しました】

農林水産省は、今後の農作物の病虫害発生動向や防除について「令和 7 年度病虫害発生予報第 9 号」を発表しました。

気象庁の向こう 1 か月の予報（11 月 6 日付け）では、気温は、北日本でほぼ平年並、東日本で平年並か高い、西日本及び沖縄・奄美で高いと予想されています。降水量は、北日本日本海側、東日本太平洋側及び西日本太平洋側で平年並か少ない、北日本太平洋側でほぼ平年並、東日本日本海側及び西日本日本海側で少ない、沖縄・奄美で多いと予想されています。

野菜・花きでは、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウの発生が、関東、東海等の複数の地域の一部で多くなると予想されています。

かんきつのハダニ類の発生が、東海、近畿及び南九州の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、きゅうりのコナジラミ類等、地域によっては多くなると予想されている病害虫があるので注意してください。

◇ 「令和7年度 病害虫発生予報第9号」の発表について（令和7年11月12日（水）付け農林水産省プレスリリース）はこちらから（農林水産省 Web）

※ 都道府県の発表する病害虫発生予察情報と併せてご利用ください。

→ <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/251112.html>

◇ 都道府県の病害虫発生予察情報などはこちらから（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省消費・安全局植物防疫課（担当：国内防除第2班）

TEL：03-3502-3382（直通）

【2.（みどり戦略技術紹介）園芸作物における堆肥入り複合肥料の施肥の省力化に資する活用法】

「みどり戦略技術紹介」では、毎月、環境負荷の低減に取り組む農業者の皆様に役立つ技術をご紹介します。

今回は、園芸作物における堆肥入り複合肥料の施肥の省力化に資する活用法についてです。

堆肥入り複合肥料は、品質管理された堆肥をベースに造粒及び加熱乾燥した複合肥料で、生産量は年々増加しています。この度、北海道独自の環境保全型農業、Yes!clean 栽培の基準に適合した園芸作物用の複合肥料の配合が明らかにされました。可搬性に優れ、広域的な堆肥活用が可能です。またこの複合肥料を施用することで、トマト、ハウレンソウなどでは、追肥や施肥回数を省略しつつ、慣行栽培と同等以上の収量が得られ、省力化と安定生産の両立が期待されます。

本技術の詳しい情報については、みどり技術カタログをご覧ください。

◇ 「みどりの食料システム戦略」技術カタログ（分割版：施設園芸）（PDF：7,151KB）p.10 園芸作物における堆肥入り複合肥料の施肥の省力化に資する活用法（農林水産省 Web）

→

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/05_midori_catalog5_engei.pdf#page=10

◇ 「みどりの食料システム戦略」技術カタログ（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/catalog.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省大臣官房政策課技術政策室（担当：推進班）

TEL：03-3502-3162（直通）

【3. サツマイモ基腐病に強く収量・外観・食味に優れる沖縄向け青果用紅いも新品種「Hai-Sai すいと」と】

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（以下「農研機構」）は沖縄向け青果用紅いも新品種「Hai-Sai（はいさい）すいと」を育成しました。サツマイモ基腐病に強く、沖縄県で青果用として利用されている「沖夢紫（おきゆめむらさき）」や「備瀬（びせ）」よりも多収で外観が良く、肉色は「沖夢紫」と同等の濃い紫色を呈し、蒸しいものの食味が良いのが特徴です。沖縄県産紅いもの青果用市場の拡大に貢献することが期待されます。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/172298.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

【4. 基腐病に強い赤紫肉色のサツマイモ新品種「さくらほのか」】

農研機構は、赤紫色の肉色を持つサツマイモの新品種「さくらほのか」を育成しました。

「さくらほのか」は、既存の紫サツマイモとは異なり、赤みを帯びた暖色系の鮮やかな赤紫色が特徴です。いも収量が高く、サツマイモ基腐病に対する抵抗性にも優れています。揚げ菓子などの加工用途に利用することで、色鮮やかなサツマイモ菓子の開発が可能となり、加工品の多様化が期待されます。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/172297.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

【5. 収穫したレンコンに傷が... カモの食害？－ 食痕から「カモ被害」を識別する標準作業手順書を公開 －】

農研機構は、「れんこんへの『カモ被害』把握のための食痕識別標準作業手順書」をウェブサイトで公開しました。

収穫したレンコンにえぐられた傷があった場合に、鳥（マガモ、カルガモ、オオバン）による食害であるか識別する手順を解説しています。

様々な形の食痕（レンコンに付いた傷）の実例写真を収録しました。本手順書と照らし合わせることで、加害種を推定し、鳥によるレンコン食害の正確な把握につなげることができます。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nilgs/172044.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

【6. ドローンによるスクミリンゴガイ被害予測に基づく省力的な防除システムを開発】

農研機構は、スクミリンゴガイによる水稻被害の発生予測マップを自動作成し、そのマップに基づいて薬剤をスポット散布できるドローン防除システムを開発しました。スクミリンゴガイは、主に九州から関東までの広範囲に生息しており、水稻の初期生育期に水深が深いエリアで食害が発生しやすくなります。本成果により、食害が予測されるエリアのみに薬剤を散布することで、田植え後の農繁期において省力的かつ効率的にスクミリンゴガイの被害を軽減できます。みどりの食料システム戦略が掲げる 2030 年目標のうち化学農

薬使用量（リスク換算）の10%低減にも貢献します。

◇ プレスリリースはこちら（農研機構 Web）

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/172361.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら（農研機構 Web）

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課（担当：戦略的実装班）

TEL：03-3502-7407（直通）

【7. 第2回「田植え不要の米づくりコンソーシアム」を開催します】

農林水産省は、我が国の主食である米を安定的に供給することが求められる中、省力化に資する田植え不要の米づくり（直播栽培）の取組を推進すべく、民間企業等の参画によるコンソーシアムを開催しています。

今回は、「乾田直播」及び「湛水直播」をテーマとして、実践農業者等による取組事例の紹介やパネルディスカッションを行い、今後の直播栽培の推進に向けた検討を行います。オンライン配信もございますので、是非ご参加ください。

日時：令和7年12月17日（水曜日）13時00分から17時00分まで

場所：農林水産省7階講堂（オンライン）

登壇企業等：

（農業者）西部開発農産、そまやまビレッジ

（技術実証者）愛知県、富山県、クボタ

（サービス事業体）オプティム、マイファーム

（流通）亀田製菓、ビビッドガーデン、雨風太陽

◇ 参加を希望される方は、次の申込フォームから（フォームメーカー）

→ <https://business.form-mailer.jp/fms/e66bf47b319258>

◇ 当日のプログラムなどコンソーシアムの詳細についてはこちら（農林水産省 Web）

→ https://www.maff.go.jp/j/nousin/tauehuyou_cs.html

◇ お問い合わせ先

農林水産省農村振興局地域振興課（担当：企画班、中山間対策班）

